



重文指定の 灯台どうだい？

⑤

不動まゆう

おまえさき
御前埼灯台
(静岡県)

昔から海の難所としてをめぐり抜け、150辺が並んでいて、段違い恐れられ、江戸時代から年の時が経っても堂々と別の長きの辺が並んで日本式の灯台である燈明したものである。重要文いるのがイギリス積み堂があった御前崎(静岡 化財指定の際も評価された。写真でいうと、小窓県)。ここに西洋式灯台 た点だが、灯塔は二重のから見える一番下の段が建てられたのは明治7 円筒構造となっている。は、短い小口の辺が横に(1874)年。「日本 外周と内周の間に空間が並び、上の段は長手が並の灯台の父」R・H・フ あり、強度のためや、耐んでいる。「フランス積ラントンの設計で、日本 震・湿度対策ではないか み」という方法だと、横の煉瓦造りの灯台として と推察されている。に小口と長手が交互に並2番目の灯台である。 外面は保護のためにセ んでおり見分けがつかず。

煉瓦は石材に比べて強 メントが塗られ、白く塗 ただプラントンは、記度や耐久性は劣るが、量 装されているので煉瓦積 録にフランス積みで築造産が可能な人口素材であ みの様子はわからない したと残しているのので、り運搬もしやすい。御前 が、内部に入ると、一部 ここで疑問を抱く。もし

御前 小窓が作られ煉瓦積み かしたら場所に応じて煉 離れた牧之原市地頭方 の様子が見られるように 瓦の積み方を変えている のかもれない。まだ解 製造され、小船で運ん だてている。

きたそうだ。 煉瓦の積み方には数種 明されていない先人の知

プラントンは当時の日 類あるが、この窓から見 恵が詰まっているように 本の煉瓦焼成技術に辛口 る限り「イギリス積み」 思えて、改めて灯台の奥 な意見を持っていたよう だとわかる。見分け方は 深さを感じる

だが、御前埼灯台は戦火 簡単。横に、同じ長さの

煉瓦の積み方にも先人の知恵

小窓から煉瓦積みの様
子がわかる



(つづ)